



鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

17号

2010.4

《目次》

新部門科長紹介

【診療科・部門紹介】

》心身医療科

》口腔外科

●鹿大病院を支える若い力

●病院再開発 新病棟建設予定地の埋蔵文化財調査始まる

●感染制御部門からワンポイントアドバイス

●栄養管理室からのお知らせ

●錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

《患者さんの権利》

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

《患者さんの責務》

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

新 部 門 科 長 紹 介

ご挨拶

平成22年の1月より、神経内科および呼吸器内科部門科長を拝命いたしました高嶋でございます。私は、これまで鹿児島大学で神経内科を中心に診療、教育、研究を行い、地域医療、難病医療に取り組んでまいりました。私の専門は、神経内科学、特に脊髄小脳変性症、筋萎縮症、遺伝性神経疾患、ニューロパチー、HAM、その他の神経難病であります。当教室は、九州のみならず全国でも最も大きな神経内科教室の一つで、神経内科領域の検査や治療はほとんどカバーし、脳卒中、パーキンソン病、頭痛、糖尿病性神経障害などの一般神経内科疾患から、非常に希な病気まで幅広く診療いたしております。これからも鹿児島県や近隣地域の皆様のお役に立てる安心の医療を実践し、地域の病気の解決に全力を尽くしていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

■受診案内

神経内科(TEL 099-275-5731)

＜初診日＞水・金 ＜再診日＞月～金(火は予約制)

呼吸器内科(TEL 099-275-5731)

＜初診・再診日＞月・水・木・金

ご挨拶

就任に際し考えたことは、鹿児島の外科医療を守り発展させていかねばならないということです。私どもの関係する心臓血管外科、消化器外科(肝胆膵外科)、呼吸器外科(分離再編の予定)のいずれの領域においても常に新しい知識と技術を貪欲に追い求め、鹿児島の患者さんのために役立てたいと思っております。私自身の専門である心臓血管外科でも、成人手術のみならずこれまで他県に任せていた小児患者に対し高い水準の治療ができるようにいたします。また、外科志望者の減少は深刻でありこれを食い止める事が急務です。外科の性質上安全が第一で技術習得には時間がかかりますが、早い時期から手術を含めた豊富な臨床経験を積むことが重要で、診療科の垣根を越えた協力体制が必要です。このように様々な問題はありますが、鹿児島のために頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

■受診案内

心臓血管外科(TEL 099-275-5815)

＜初診日＞火・木 ＜再診日＞火・木(月・水・金は予約制)

消化器外科Ⅱ・呼吸器外科Ⅱ(TEL 099-275-5815)

＜初診・再診日＞火・木



鹿児島大学病院 脳・神経センター
神経内科、呼吸器内科 部門科長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
神経内科・老年病学 教授

高嶋 博 先生
(たかしま ひろし)

プロフィール

医学博士
内科認定医、神経内科専門医、指導医
1990年鹿児島大学医学部卒業
2000年ペイラー医科大学留学(米国テキサス州)
2010年1月より現職。専門は神経内科学、人類遺伝学
2005年日本神経学会賞受賞



鹿児島大学病院 循環器センター
心臓血管外科 部門科長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
循環器・呼吸器・消化器疾患制御学 教授

井本 浩 先生
(いもと ゆたか)

プロフィール

医学博士
外科専門医、心臓血管外科専門医、胸部外科学会指導医
1980年九州大学医学部卒業
1983年九州大学大学院医学研究科入学
1986年ペイラー医科大学留学(米国テキサス州)
九州大学医学部附属病院、香川医科大学附属病院、
福岡市立子供病院九州厚生年金病院等を経て2010年
3月より現職。専門は先天性心疾患外科治療
第35回日本小児循環器学会総会会長賞受賞

一人ひとりの症状に合わせ 漢方医学や心理療法も取り入れ 全人的医療を目指す

心身医療科

「ストレスがかかると症状が悪くなる」「検査では異常がないのに症状は続いている」「糖尿病などで、わかってはいるけれど生活習慣を変えられない」などでお困りの方々、もう治らないとあきらめていませんか？

心身医療科では一人一人の患者さんのライフスタイルや、心理社会的背景を加味した全人的医療をもとに、症状や生活習慣の改善を目指す診療を行っています。ストレスが関係していると言われる疾患は多数ありますが、ストレス社会といわれる現代では、自分でも気づかないうちに症状を悪くさせてしまうことも多いのです！ 通常の内科的治療に加え心理療法や漢方薬を組み合わせることで、長年お困りの慢性的な症状も改善することがあります。

また、昨年より当科の専門外来として和漢診療外来を開設しました。めまい・頭痛・身体の痛み・胃腸虚弱・疲れやすい・手足の冷え・しびれなどの慢性的な症状を対象に、漢方薬を中心として心身両面から治療を行っています。なお、処方する漢方薬には健康保険が適用されます。お困りの症状がおありの方は、その程度・部位に関わらず、ぜひ一度ご相談下さい。

＜初診受付＞月・木(8:30～11:00)

＜和漢診療外来初診受付＞ 木(午後:完全予約制)

TEL 099-275-5751



ビスフォスフォネート系薬剤による 顎骨壊死について

ビスフォスフォネート系薬剤(以下BP)は、骨粗鬆症、乳癌などの骨転移、多発性骨髄腫などに使用されていますが、近年、BP投与中の患者さんに抜歯後の顎骨壊死が報告されています。BPは顎骨に沈着しやすく破骨細胞を障害し骨の改造を阻害します。BP投与と同時の副腎皮質ステロイド薬の使用は顎骨壊死の頻度が増加します。抜歯後に、BPに起因する顎骨壊死が発生すると口腔内に歯槽骨の露出を認め、これに口腔内細菌の感染を伴うと骨壊死が進行性に拡大し、嫌気性菌の感染により口腔内に悪臭をきたすようになります。BP投与中の患者さんは抜歯やインプラントなどの観血的処置は回避すべきであるといわれています。抜歯などの観血的処置はBPを3カ月休薬後に行い、BP投与は創部が完全に治癒してから再開します。BP投与の予定がある患者さんは投与前に歯科を受診して頂き、BP投与前に虫歯や歯周病の治療、抜歯などの観血的処置、義歯の調整などの歯科治療を済ませておくことが必要です。BP投与中の患者さんが歯科を受診される場合には、必ず主治医にBP服用中であることをお知らせください。

＜初診受付＞月・木・第2・4週の金(8:30～12:00)

TEL 099-275-6640

口腔外科



BP投与中の患者さんの抜歯後に生じた顎骨壊死

鹿大病院を支える

若い力

—第4回—



薬剤部
医薬品情報主任
感染制御専門薬剤師 松元一明



患者さんからの薬に関する相談にも対応する

家族の病気がきっかけで薬剤師を目指す

子どもの頃から家族が病院へ通っており、薬の効果と副作用を目の当たりにしてきました。そうした経験から、自然と薬剤師になりたいと考えるようになったのだと思います。薬剤師となった今、薬は効果と副作用の両面を持つ「諸刃の剣」だと理解していますが、当時はなぜ副作用が起こるのか不思議に思っていました。薬の副作用を軽くするような研究をしたいと、進学先には迷わず薬学部を選びました。大学院では、薬の血中濃度を調べて、薬が体の中でどのような動きをするかを調べる「薬物動態」の研究をしてきました。

平成15年から鹿児島大学病院に勤務しています。出身が鹿児島ですし、鹿児島で最先端の医療に携わり、さらに研究を続けていくなれば鹿大病院がいいのではと考えたからです。薬の最新の情報を論文等から収集したり、血中濃度測定による薬物動態の研究をすることで、薬の効果を最大限に発揮し、副作用をなるべく回避できる投与方法や飲み合わせを、患者さんや医師に提供できるよう心がけています。

病棟ごとの薬剤師配置でより高度な医療を提供したい

薬剤師の業務は多岐に渡ります。医師の処方チェックして患者さんに薬をお出しするほか、病棟のカンファレンスに参加して薬の種類や量、投与方法などを提案する仕事も行っています。近年は薬剤師もより高い専門性を問われるようになり、「感染制御専門薬剤師」という資格を取得しました。院内の感染防止のため、医師や看護師、検査技師、事務職の方々とチームを組んで各病棟を回り、抗菌薬や消毒薬の適正使用に努めています。薬の効果が出て患者さんが治っていく姿を見るときは、やはりやりがいを感じます。将来は、各病棟に専任の薬剤師を配置するような体制ができれば、薬に関するコミュニケーションを医師や看護師と密に行うことができ、患者さんにとってもより安心・安全な高度医療を提供することにつながるのではないかと考えています。

TOPICS

病院

再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行います。期間中、ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

新病棟建設予定地の埋蔵文化財調査始まる

新病棟建設予定地の埋蔵文化財調査が始まりました。調査面積は、約3900㎡で平成22年4月から平成22年12月にかけて調査を行う予定です。調査終了後の平成23年1月からは、新病棟建設にとりかかる予定です。



新病棟建設予定地の埋蔵文化財調査位置



感染制御部門から
ワンポイント・アドバイス

風邪や胃腸炎などの感染予防に手洗いは大切です。

確実な 手洗い方法

本院で実施している
手洗いの方法を
紹介します。



手洗いを
しそこないやすい部位

● もっとも手洗いを
しそこないやすい部位

● やや手洗いを
しそこないやすい部位

手洗いの手順 ～12のポイント～



1 手のひらをこすり合わせる



2 両手の指の間にこすり
合わせる



3 4 手の甲をもう片方の手の
ひらでこする(両手)



5 指先をもう片方の手でこする



6 爪部分を洗う



7 8 左右を変えて⑤と⑥
をくり返す



9 10 親指をもう片方の手の
ひらでこする(両手)



11 12 手首を丁寧にこする(両手)

液状石鹸を使い、時計等をはずして
ていねいに洗いましょう。

* 蛇口は使用したペーパータオル
で締めましょう。



●栄養管理室からのお知らせ●

本院では、食事療法が必要な外来患者さんを対象
として、計量教室(予約制)を開いています。計量教
室では、参加した患者さんに病気の症状に適した食事を実際に食べ
ていただき、自宅での食事療法に役立てられるよう、本院の管理栄
養士が専門的なアドバイスをいたします。

①見る! ②計る! ③実食!

教室では、

- ①まず実際に目で見ていつも食べている食事量や、材料の種類など、どこが違うか比較していただきます。
- ②次に、一食分のご飯・おかずには、何が(食品)どれ位(分量)必要なのか、適正な味付けとは、塩分・砂糖等の調味料はどれ位なのか等、計って確認していただきます。
- ③最後に、約30分位かけて食べていただいて、満足感や家庭での食事と外食との味付けの差を感じていただきます。



約500キロカロリーの食事

「食事に気を付けて」と言われたけど……

「何をどれくらい食べたら良いの?」「今の食事で大丈夫?」

糖尿病、腎臓疾患、ダイエット等でお困りの方!

自分に適した食事を計量教室で学びませんか?

【開催日】 火～金曜日 11:50～

【所要時間】 約40分

【開催場所】 医科病棟3階栄養相談室

【申込方法】 3日前までに主治医へお申し込みください。

【経 費】 栄養指導料と材料費実費がかかります。

【お問い合わせ】 栄養管理室 TEL 099-275-5182

市街地目前の「サンゴの海」

冬だというのに、春のように暖かい日。桜島の噴煙が、真っ青な空にたなびいています。私は、波一つ無い錦江湾を、神瀬に向かいました。神瀬は、鹿児島市街地と桜島の間、桜島水道の真ん中に浮かぶ、小さな島。白い灯台が、海の真ん中にぽつんと立っているの、鹿児島市内からもその存在を知ることができます。

神瀬に近づくと、砂州で休んでいた海鳥たちが、一斉に飛び立ちました。私は、アンカーを降ろし、潮の流れを注意深く探ります。神瀬の周辺は、潮の干満で湾奥に出入りする海水が強い潮流をつくります。不用意に飛び込むと、潮に流されてしまうのです。

鹿児島の市街地を眺めながら潮が止まるのを待って、私はゆっくりと海に入りました。目に飛び込んでくる光景は、陸上の景色からは想像もつかないものです。海底は一面のテーブルサンゴに覆われているのです。

地球温暖化という言葉が普通に使われるようになって幾年。冬の錦江湾の海底に「サンゴの海」が広がりつつあります。



神瀬の海底に広がるテーブルサンゴ(ミドリイシ類)の群生地

TOPICS

新規採用者研修会を実施

鹿児島大学病院は、4月1日、この春医療人としての第一歩を踏み出した新規採用者らを対象に、一般企業での入社式にあたる「平成22年度新規採用者研修会」を鶴陵会館大ホールで実施しました。当日は、医師および歯科医師の教員・研修医、看護師、薬剤師、歯科衛生士、理学療法士、臨床工学技士、社会福祉士などの医療系職員、事務系職員など、合計194名が参加しました。



研修会の初め、やや緊張した雰囲気の中、高松病院長から参加者の代表に辞令が手渡され、続いて本院の基本方針や理念、社会的役割、組織について講話がありました。

引き続き本院の役職者や産業医、その他の関係者から、医療従事者としての自覚や社会人としての責任、健康管理などの知識、さらに本院が最重要課題として取り組んでいる医療安全や感染対策について説明を受けました。

この後、新規採用者は桜ヶ丘の本院および霧島リハビリテーションセンターの各部署に配属され、さらに専門的な研修を経てそれぞれの業務に就いていきます。新しいスタッフが一日も早く職場に慣れ、患者さんや地域社会へ貢献できるよう、これからも病院全体でサポートしていきます。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気についての一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈17号〉

2010(平成22)年4月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>